

■ 開設年度		■ 開講部局	
2011		共通教育	
■ 科目名			
持続可能な開発と東洋の環境思想			
■ 英語科目名			
■ 前後期		■ 開講区分	■ 科目形態
後期			講義
■ 単位数		■ 大分類（科目）	■ 中分類（分野）
2		教養科目	分野1
■ 受講学部学科			
全			
■ 担当教員		■ 担当教員所属	
萩原 豪		稲盛アカデミー	
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）	
099-285-3757		k6219828@kadai.jp	
■ オフィスアワー（授業時間外の対応）			
【オフィスアワー】毎週木曜日 3 時限目@萩原研究室			
オフィスアワーでの対応については、できるだけ事前にメールでアポイントをとるようにしてください（ダブルブッキングを避けるため）。			
■ 共同担当教員			
■ キーワード1		■ キーワード2	
視野・判断力・探求能力		コミュニケーション能力と相互理解	
■ 授業概要（目的・内容・方法）			
〔背景〕「持続可能な開発」（Sustainable Development）という言葉が国際的に使われるようになってから約30年が経過しました。そして現在まで地球環境と開発を巡る問題には「持続可能な開発」という考え方を採用することが多くあります。しかし、この言葉の共通認識はあるものの、その定義はいまだ定まっていないのが現状です。他方、東洋社会には伝統的に「人間は自然との関係性の中で生きている」という「持続可能な開発」に深く関連する環境観が存在します。東洋社会では、人間の利益を絶対的に考えるのではなく、自然生命の固有価値のなかに人間の生存を見出してきています。日本における自然崇拝も、この事例のひとつと言えるでしょう。			
〔目的および方法〕今後、「持続可能な社会」の構築を実現するためには、さまざまな主体（個人・政府・自治体・地域社会・企業・民間等々）が協力し合わなければなりません。本講義では「持続可能な開発」と「東洋の環境思想」という2つのテーマにして、日常生活の中で見られるモノやコトなどを具体的事例として取り上げ、ESD（持続可能な開発のための教育）をどのように展開していくか、「持続可能な社会」に対する知識・認識の共有化を行っていきます。そして国際社会が模索している「持続可能な社会」の在り方について受講生と一緒に考えていきます。そのため、ワークショップ形式で受講生がお互いに考え学んでいくスタイルをとります。			
■ 学習目標			
(1) 「持続可能な開発」や環境思想を巡るの国内外の動向を理解するとともに、環境問題を多角的な視点から考察していくことができるようになること。 (2) 自分の眼と耳と足で情報を探して作りだし、問題を発見・考察・分析・整理・発表するという社会人としての基礎技術の習得。 (3) ワークショップやグループワークなどの協働作業を通じて、問題認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極性や責任感の醸成。 (4) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル（PCやインターネットの使い方）、文章力やプレゼンテーション力の習得。			
■ 授業計画（15回に分け、回数、授業内容、自学自習等）			
〔授業内容および方法〕第1回目の授業ではガイダンスを行い、履修希望者の関心がどのようなところにあるのかを確認していきます。授業で取り上げる作品は受講生の関心や時事的なテーマなども踏まえて、その都度、柔軟に対応していきます。授業はワークショップ形式で行います（講義とグループワークを組み合わせます）。グループワークについては授業時間外にグループメンバーと連絡をとりあったり発表準備などの作業をする必要が			

出てくると思います。

- ・ガイダンス
- ・レポートの書き方、グループワークの進め方
- ・「環境」に関するグループディスカッション
(基礎的なもの、時事的なものを組み合わせる予定です)
- ・「持続可能な開発」と「持続可能な社会」とは何か
- ・環境思想・倫理の系譜
- ・環境教育施設見学会(場所未定)
- ・グループワーク
- ・研究報告会(かごしま環境未来館)
- ・ふりかえり

[授業時間外活動] 週末の時間を利用して正規の授業を行うことを計画しています。1月下旬: 研究報告会(かごしま環境未来館: グループワークで行ってきたことを発表してもらいます)。時期未定: 環境教育施設見学会(場所未定)。これらの活動は水曜4時限目の授業時間数に読み替えます。詳細については第1回目の授業(ガイダンス)でお知らせします。

■ 受講要件	■ 成績の評価基準
本講義のテーマに関心を持っていること。	授業への参加度(授業態度やグループワークへの貢献度など): 60%、課題等提出物(リアクションペーパーやレポート、研究報告会の資料・最終レポートなど): 40%、で総合的に判断します。学期末試験は行いません。 [注意] 次に該当する場合は評価対象外とします。(1) 出席が総授業数の3分の2未満の場合、(2) 研究報告会の後に提出する最終レポートの提出がない場合。
■ 教科書	■ 参考書
教科書は使用しません。必要な資料は授業で配布します。 課題作成のために必要な書籍は別に指定します。	参考文献として書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・webなど、身の回りにある情報源から日常生活に関することを幅広く取り上げていきます。参考文献一覧は授業中に配布しますが、主たる参考文献として次のものを挙げておきます。 (1) 尾関周二・武田一博・亀山純生『環境思想キーワード』青木書店、2005年。 (2) 稲盛和夫著、鹿児島大学稲盛アカデミー編『稲盛和夫講義集』鹿児島大学稲盛アカデミー叢書1、2010年。 (3) 加藤尚武『環境倫理学のすすめ』(丸善ライブラリー)丸善、1991年。 (4) 加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』(丸善ライブラリー)丸善、2005年。

■ その他

[受講者数制限について] 受講者数は35名以内に制限します。履修登録人数が多い場合は抽選とします。この場合、第1回目の授業に出席した人に優先権を与えます。

[履修登録について] 履修希望者は第1回目の授業に必ず来てください。履修登録を行っても第3回目までの授業に出席しない場合、自動的に履修登録を無効とします。